

# 2013 年度 ミドル世代向けコンパ 「Ren.Com」の実践と検証



【報告／「Ren.Com」企画運営委員会】

2013.4.30

## 1. はじめに

2012年7月20日(金)、ラボのしゃべり場を開催。しゃべり場の前提は、自由な意見の場であり、出てきた意見の中から、ラボらしく出来るものを見つけ、仮にすぐに取り組みに反映できずとも、将来の「実」としてとっておくこと。

この前提で、出席者8名で自由な意見を出し合った中、「ミドル世代の出会いがない。その場をラボで提供できないか」という郷間顧問の発想から、企画がスタート。

### 「ミドル世代向けコンパ」に関する発想・意見

1. 今、「まちコン」がブーム。その発祥の地が宇都宮。県内でも那須や益子でも盛り上がりを見せている。このミドル版をやってみてはどうか(その実験を行おうとしている自治体もあるとTVで報道していた)。
2. 婦人相談所や結婚相談所に行く方も多い。しかし、やってもせいぜいパーティー止まり。  
また、結婚したくて日本ではなく海外に出向き、結果だまされてしまっても、それでも結婚をあきらめない方もいる。  
35~55歳までの男女で、不幸にも自分が独身であると思っている方、家庭を持つことを放棄している方は除いて、実際この年齢まで来てしまって、結婚を諦めようとしている方を対象。離婚してしまったけれど、今後の人生において結婚を再度したい方はいる。しかし、同世代でお酒を飲む機会すらかなり少なくなってきている現状に、そのキッカケをラボが提案してみてもどうか。
3. 規模は小さくなくて、ラボは実験的にやってみるだけ。  
その実験を参加者の感想も含め検証して、改善していき、規模が大きくなるようであれば誰かに委ねてもいいし、行政に提案してもいい。手法については、「宮コン」に倣うも、お店の選別はミドルらしい店舗。  
ラボでの実験では、男女合せて30人程度で、「宮コン」参加者は目印にミサンガを付けているが、ミドル版ではそれに変わるお洒落なものを考慮。お店も4~5店舗で十分。おでん屋や焼鳥や、甘味処というような。
4. 「宮コン」と違う点が1点。ミドル版にはおせっかい役が入ること(ファシリテーター役)。  
会話のつなぎ役を設けること。場に慣れるまで、あるいは参加者が男性同士、女性同士に分かれないようにするためでもあるし、参加者が恥ずかしがって話せない場合もある。  
雰囲気のきっかけづくりのためにこの役を入れるのが「宮コン」との違い。  
この役については、ラボで担い検証してみる。
5. 実験における参加者については、ラボの役員・研究員の知り合いで始めることで十分。  
店舗と会費設定だけ考えれば、「明日にでも」できる。  
これがうまく行って、将来的に規模が大きくなれば、実行委員会なんかは誰かに託し、運営方法についてだけラボが考えればいい。例えば、宇都宮を東西南北に分けて、今日は「西」だから「ウエストサイドストーリー」か、とか、ローテーションで回していくというのもおもしろい。  
参加者もきちんとデータ化して、前回までに上手く行かなかった方についてはきちんとお誘いする。結局それが、新たな結婚相談ネットワーク、縁結びネットワークという形になっていくと思う。

## 2. 開催までの経過と運営

- ① 2012年9月7日に開催した総会で、改めて議論した結果、ラボの実験事業として展開することとなり、「ミドル宮コン」という仮称で、企画運営委員会を立ち上げ、10月と12月に会議を開催。

前述のしゃべり場において出された意見を、実験とは言え実際に行うことを想定して改めて検証した結果、3ページの案内チラシにあるような条件や参加費、開催日時・店舗等の詳細、そして「Ren.Com (レンコン)」という名称を決定。

- ② 参加条件の中に、「結婚を諦めていない方」、「真剣に結婚をしたい方」等、「結婚」の2文字を入れた参加条件を考えたが、その前の段階である「出会いのキッカケ作り」が大事であることを優先し、企画。その上で「カップル」が誕生できるような仕掛け、運営を考察。
- ③ 参加費について男女間格差が無いのも実験として行う。ただし、男性からすれば「男性らしからぬ」的な心情になるため、参加女性（特定ではない）に対するプレゼントを用意することを条件とした。これは男性側がうまく使えば、自分のアピールにもなる、という事務局側の狙いもあった。
- ④ 開催日時については、事務局側の狙いとして対象がミドル世代ゆえ、「カップル⇒（できれば）夫婦」となるように、との願いから「2月2日（夫婦の日）」に設定。
- ⑤ 開催店舗については、当初本家「宮コン」のように複数店舗の協力を得て開催しようと考えていたが、ミドル世代は「腰を落ち着けたら動かない」という意見から、1店舗での開催とした。開催店舗は最大80名収容とあったが、男女計30名とラボスタッフの約40名を想定し、協力を得る。
- ⑥ 実験コンパゆえ、今回の参加者は大々的に告知はせず、ラボ役員・研究員の友人・知人ルートで募ることとした。また、会話の糸口になるよう参加者には「好きだったアニメ作品・思い出深い歌謡曲」の2設問に答えることを条件とした。

当初、簡単に参加者が集まり、すぐにでも定員オーバーとなるものと考えていたが、難航（理由は後述）。何とか開催前日に男性17名、女性16名の参加者を得る。

- ⑦ 4ページに当日のプログラムを掲載したが、好意的なお店のご協力のもと、約2時間半の内容を企画。

スタート時は自由席にすると男性、女性同士で席が固まるため、事務局で座席を指定（参加者にナンバリングすると共に、受付時にそのナンバーを伝え、自分でネームプレートに記入してもらう）。時間が経つにつれ、気になった人がいれば動き出すであろうという狙いもあった。

また、会話の糸口になるよう、懐かしい歌のライブ提供や、男性が用意したプレゼントについては何故その品物を用意したのか理由を話し、女性が引く「くじ番号」との一致で、女性はその感謝を必ず本人にさせていただくようアナウンス。

最後は、短時間ではあるけれど「いい感じ」と思った方を3名記入してもらい、一致した＝カップルとなった方を発表し全員で祝う、という構成にした。

Welcome to Middle

at 食工房 Moga



# れんこん Ren.Com

年を重ねるにつれ、同世代との飲み会が少なくなってきましたか？

“飲み会”といっても、会社の同僚や後輩とばかり。それはそれで大事で大切なことですが、会話は仕事のことばかり。

たまには、「同世代で、異業種で、楽しく飲みたい!!」と思いませんか？

レンコンは他のコンパと違って、場を盛り上げるスタッフ(もちろん雰囲気に応じます)がいます。同世代の“懐かしい話”、“お酒を飲み始めた頃の楽しい雰囲気”をお約束し、そして「素敵な、新しい出会い」を提供します。

「Ren.Com」(レンコン)の意味  
池中に連なりながら可憐な花を咲かせる蓮の根(れんこん)にちなんで、実のある風通しの良いミドル世代のお洒落なコンパにしようと名づけました。  
「恋コン」になるかどうかは???

2013年2月2日(土) 19:00 START (18:30 受付開始)

- ・ 参加条件: 35歳から55歳までの独身の男女
- ・ 参加費: 男女共に¥5,000  
(※ただし、男性は¥2,000以内で参加女性へのプレゼントをご準備ください。特定の方へのもではありません)
- ・ 場所: 食工房Moga (下図参照)  
宇都宮市宿郷 1-19-3 ラポール入江 1F TEL:028-632-8340  
JR 宇都宮駅東口徒歩7分  
お車でお越しの方は、東口屋台横丁に駐車願います (徒歩1分)。



**City Lab**  
シティ・ラボ・うつのみや

お問い合わせ先  
シティ・ラボ・うつのみや(担当)  
TEL 090-0000-000  
メール @yahoo.co.jp

Welcome to Middle

2013年2月2日（土）19：00 START

at 食工房 Moga



# れんこん Ren.Com Program

～ お品書き ～

1. Ren.Comスタート&あれこれルール紹介（19：00）
2. 乾杯&「おせっかい付」フリートーク（19：10～）
3. スペシャルライブタイム！（19：45～）
4. ゴールデンプレゼントタイム！（20：00～）  
\*\*\*\*\*プレゼントお礼の一言&フリートーク\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*ちょっと真面目な5minタイム\*\*\*\*\*
5. れんこん名物「いい感じ」投票タイム！（21：00～）
6. ビビット・カップル発表と二[次会&次回]のご案内（21：30～）

=====  
**【ラボスタッフへの伝言】 お名前：** \_\_\_\_\_

お帰りの際にスタッフにお渡しください。

### 3. 実施と検証

#### ① 参加者について

A：前述の2-⑥の通り、前日まで参加者は難航。

理由としては以下の2点が挙げられる。

- ・ラボの募集スタートが1月中旬であったこと（ゆえにチラシだけでなくメールでも参加を呼びかける）。

ラボ役員・研究員の友人・知人に心当たりが多くとも、ミドル世代の独身は、予定が無いようで、土曜日は特に地域行事や仕事等の予定が入っている。

- ・女性（特に離婚者）は、土曜日の夕方は育児や介護を終えた後、パート等の仕事に出る方がいる。

B：“参加者が集まらなかったため”という理由もあるが、参加条件年齢に満たなくとも、「参加してみたい・年上に興味がある」という方の声に対応。

C：参加者の中で、男女問わず“1人では行き辛い”方がいたため、専属のお世話役（＝既婚者）の参加に対応。

#### 【参加者内訳】

- ・男性：20代1名、30代3名、40代12名、50代1名＝計17名

お世話役1名

- ・女性：20代2名、30代3名、40代10名、50代1名＝計16名

お世話役1名

- ・ラボスタッフ7名

#### 【カップル成立】2組

- ・男・女共に40代      ・男性20代・女性40代

#### ② お世話役（ラボスタッフ）について

- ・当初、参加者のテーブルに就いて、会話の橋渡しの役割を担う予定であったが、実際始まってみると、自分がお世話したい方がいないとやりづらいことが判明。企画内容にもよるが1店舗開催にあたっては、当日のラボスタッフは司会者・総務・経理の3名で十分である可能性がある。

#### ③ 開催店舗と参加者について

- ・実践してわかったが、開催店舗の宣伝に収容人数が明記されていても、実際にこちら側で意図する企画を実践するためには、テーブルの配置等を熟慮する必要がある。今回、結果狭い空間になってしまったため、司会者アナウンス、他のテーブルへの移動、料理・飲み物の配膳等の関係性がすべて逆効果となってしまった。

- ・参加者の動きも悪かった。確かに店舗空間は狭かったが、最初に設定した座席から他のテーブルに動いた方は数える程度しかなく、強制的に動かそうとプレゼントタイム時にアナウンスするも一切動きは見られなかった。

#### ④ 開催後に出された意見

当日の終了後の参加者の声、及び「Ren. Com」企画運営委員会総括で出された意見は以下の通り。

- ・ 参加費のお得感を全面に（他とは違う点。飲み放題付など）：アピール方法
- ・ 日曜日の夕方の開催（←女性視点）
- ・ 案内を作成し、必ず周知期間及び締切日を。
- ・ 早めの参加者集約。個人情報も含め。しかし、キャンセルする方も考えれば、参加枠以外に、予備登録枠を設け、キャンセルが出た場合に声かけができるようなシステムを作る。
- ・ 男女の参加費の差があったほうがいい。
- ・ 年齢制限は「目安として35歳以上」の表記
- ・ ライブはなし。
- ・ プレゼント交換はあっても、今回のような時間はとらない。
- ・ マイクアピールがうるさい。
- ・ 参加者の動線の確保⇒イメージは朝のビュッフェ。場所もホテルでいいかも。
- ・ 強制的なシャッフルタイムの導入
- ・ 参加者の会へのマイナス意見は聞くが、気にしないこと。
- ・ お世話役（＝既婚者）の参加。
- ・ お世話役は、やはり自分がお世話をやきたい人を連れてきたほうが楽。
- ・ 受付は、人数が多ければ多いほど、参加者確認と参加費の徴収、名札書きだけといったシンプルな流れに。
- ・ 参加者交流を主体に。
- ・ 参加者のつながり感が出たは良かったし、それ故に安心できたとの声も。
- ・ 次回を望む参加者の声、多数。

#### 4. おわりに ～ 次回に向けて ～

2013年4月11日に開催した企画運営会議で、前述の通り参加者及びラボスタッフからの意見を吸い上げ、次回の「Ren. Com」を開催することを確認した。

参加者からのクレームは期待の表れであり、現にクレームは言いつつも「良かった。またやって欲しい。楽しかった」との声が多数あったことが心強い。これは一方で、今回ラボの役員・研究員の友人・知人を軸に参加者を募ったことで、参加者自身が他のコンパと違った「安心感」があったからだと思える。

スケジュールの都合上、参加できなかった方からも「次回の機会にはぜひ声をかけて。おもしろい企画。こういうコンパを待っていた」という声もあり、潜在的に多くの参加希望者がいることもわかった。

開催曜日や参加費設定、周知期間と運営方法を考察し、次回に臨んでいきたい。